

## 資産運用委員会（平成 23 年 7 月 4 日開催）議事要旨

【開催日時】 平成 23 年 7 月 4 日（月）13 時 30 分～15 時 00 分

【開催会場】 中小機構 第一役員会議室

【議 題】 平成 22 年度 資産運用状況と評価について

### 【議事要旨】

事務局より平成 22 年度の運用状況について報告。

- 平成22年度は、国内株式の低迷と円高により厳しい運用環境。
- 平成22年度決算の運用益は681億円（前年度3,154億円）、運用利回りは0.87%（前年度4.17%）、年度末の運用資産は7兆7,474億円（前年度7兆7,637億円）。
- 基本ポートフォリオとの乖離幅は許容乖離幅の範囲内。過去6ヶ年（平成17～22年度）の平均運用利回りは1.34%（幾何平均）。運用資産の約7割を占める「国内債券（簿価）」等の資産が安定した収益を確保。
- 平成22年度末の繰越欠損金については、対前年度140億円増（平成21年度末は対前年度2,302億円縮減）。
- 運用資産の約2割を占める委託運用資産（国内株式、国内債券（時価）、外国株式、外国債券）の平成22年度の超過収益率（委託運用資産の収益率－ベンチマーク収益率）は0.13%。

### 【主な質疑等】

- （委 員）他機関の共済や年金の運用利回りがマイナスとなった運用環境下において、運用利回りがプラスを確保したことは評価できる。
- （委 員）委託運用資産においても、厳しい運用環境の中で超過収益がプラスであったのは、着実に管理・運用した成果と言える。平成 22 年度に新しく運用ファンドを採択し運用開始しているが、どのようにフォローしたのか。
- （事務局）四半期ごとに運用機関とのミーティングを行っており、新しく運用開始したファンドにおいてもミーティングを2回実施し、採択した際に想定した範囲の運用状況であることを確認している。
- （委 員）運用の基本方針に基づいた安全かつ効率的な運用ができ、キャッシュ・フローの流動性が確保されている。国内債券（簿価）は20年債に重点をおいたラダー構築に向けて着実に実行し、生命保険資産は解約控除付きに振り替えて運用利回りをアップさせており、適切に運用していると評価できる。
- （委 員）インハウス債券の非国債のウェイトが大きくなっているが、保有する債券が格下げされた場合の対応について、今後検討をしておく必要がある。
- （委 員）外国株式のベンチマークがMSCI-KOKUSA Iで、エマージングにも投資しているが、そのウェイトをどのように考えているのか。
- （事務局）MSCI-ACWI（除く日本）のエマージング株式のウェイトを意識しつつ、若干リスクを抑えめにしている。その結果、外国株式に占めるエマージング株式のウェイトは約10%程度となっている。

(委員) 運用全般については、厳しい運用環境の中で運用の基本方針に沿って適切に運用したと評価。満期保有目的で取得した債券については、格付と信用リスクに対する適切な対応を、また、委託運用資産の新規運用ファンドについては、特に定性的な面のフォローを綿密に行って、方針どおり運用しているか引き続きモニタリングしていただきたい。

以上